

令和7年のイセエビ漁業について

1 令和7年のイセエビ漁獲量とCPUE

図1に茨城県におけるイセエビ漁獲量をまとめました。令和7年9月までの漁獲量は54トンで、前年(50トン)をわずかに上回りました。1日1隻当たり漁獲量(CPUE)は33.6kg/隻・日で過去最高となっていました(図2)、現時点では資源は維持されていると考えられます。

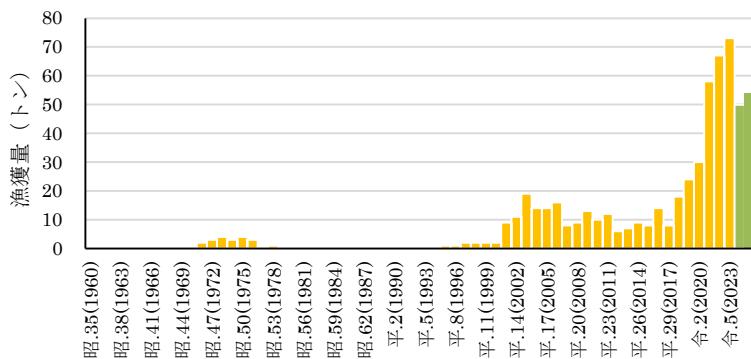


図1 茨城県におけるイセエビ漁獲量の推移

令和5年までは海面漁業生産統計調査(農林水産省)
令和6～7年は茨城県水産試験場漁獲管理情報処理システム

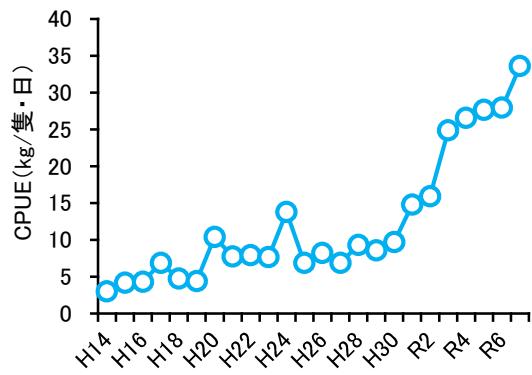


図2 茨城県におけるイセエビ CPUE の推移

2 イセエビの漁獲サイズと成熟度

令和7年の市場調査で測定したイセエビの頭胸甲長(目の後ろから頭胸甲の後端までの長さ)を図3に、雌の成熟度の調査結果を図4に示しました。頭胸甲長は68-80mmが主体で、前年・前々年の調査とほぼ同じでした。成熟度については、6月時点でも未抱卵個体がほとんどで、7月でもまだ発眼卵が見られず、前年よりも成熟が遅い傾向がみられました。原因として、春～初夏の沿岸水温が低かったことが考えられます。

来年度も引き続き調査を継続する予定ですので、市場調査の際にはご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

(定着性資源部 外山太一郎)

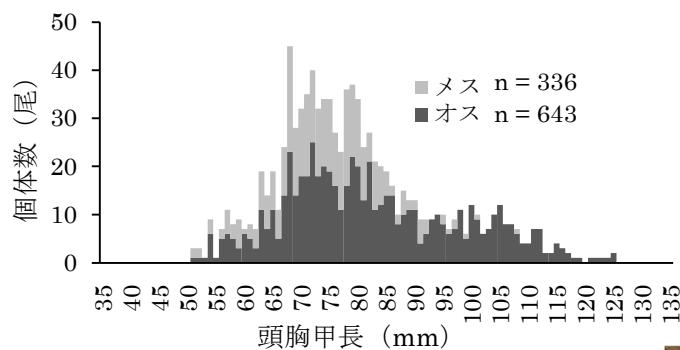


図3 市場調査によるイセエビ頭胸甲長組成

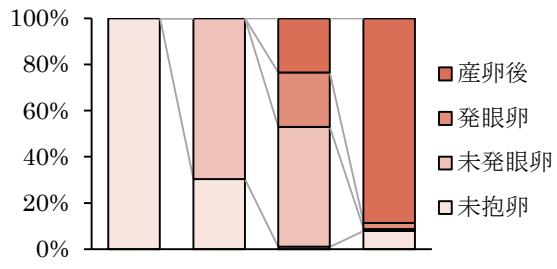


図4 市場調査によるイセエビ月別成熟度



【次回予告】令和7年11月28日発行の水産の窓は「鹿島灘はまぐりの資源状況」を予定しています。